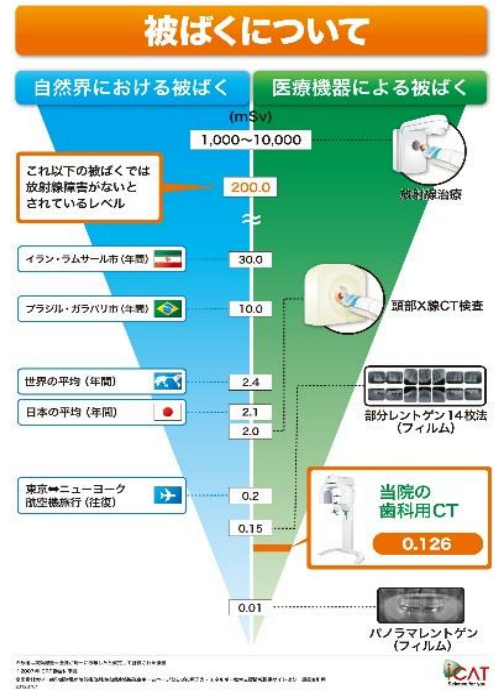


すずき歯科医院からのお知らせ

2016年1月より歯科用CTの撮影を開始しました

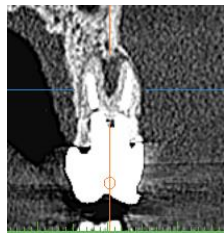


これまでインプラント治療において近隣の病院にCT撮影を依頼し、診断・シミュレーション・治療を行ってきました。当医院でCT撮影ができるようになり、わざわざCT撮影に行っていたいただく煩雑さが無くなるのは勿論のことですが、**頭部撮影専門の歯科用CT**であるため医療用CTと比較して、**約1/15の被爆線量**で撮影ができるようになりました。



歯科用CTの導入により、以下の利点があります

- ① 外科的処置 (親知らずの抜歯など) の際に、根の曲がり具合や神経との距離を事前に確認でき、偶発症のリスクを低下させることができます。
- ② 根の治療をする際に、根や骨の情報が3次的にわかるため治療の精度・効率が増し、治療結果の上昇が期待できます。また、根の先の病巣の大きさの把握と計測により、治療時期の判断や治療効果の予測などが付き易くなります。
- ③ 歯周病治療の際に、骨の状態を把握することにより、治療の必要性、時には抜歯せざるを得ない状況をも皆さんと共有・理解できるようになります。
- ④ 従来のレントゲンでは確認できない、歯の根や骨の破折・蓄膿症・アゴの関節の変形などが確認できます。

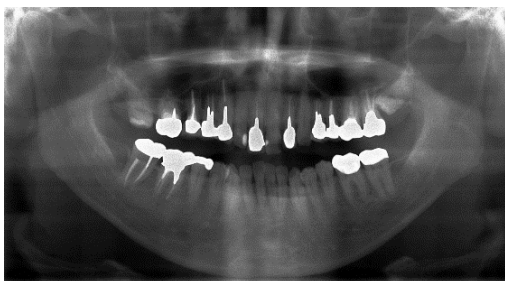


※ 難治性の根の治療・親知らずの位置の確認以外の撮影は自費治療となります

従来のレントゲンと歯科用CTとの違いは？(立体で把握！)

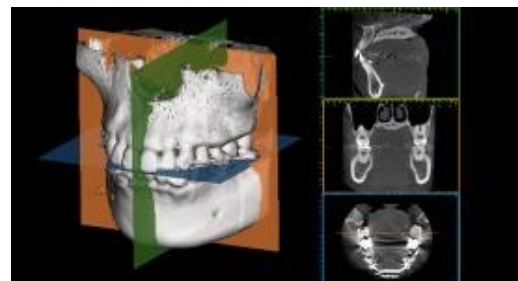
従来のレントゲンでは2次元の平面画像しか得られません。一方、歯科用CTでは3次元の立体画像が得られるので、平面画像ではわからなかった歯やあごの骨の詳細な立体構造や神経の位置などを精度高く把握することができ、より適切な診断・治療が可能になりました。

従来のパノラマレントゲン



2次元の平面画像のみ

歯科用CT



立体で把握

すすき歯科医院の歯科用 CT (RevoluX) について

歯科用 CT 導入に向けて、約 10 ヶ月間の間、ほぼすべての CT メーカーの説明を受け、実際に自分のアゴを撮影してもらい、その画像を比較検討し、また、実機を使用されている先生方に直接使用感を聞き、当医院の説明連携ツールやデータ保存、レントゲン室のスペース、被爆線量、画質レベル、インプラントシミュレーションソフトなどを考慮して (株) iCAT 社の RevoluX を導入しました。

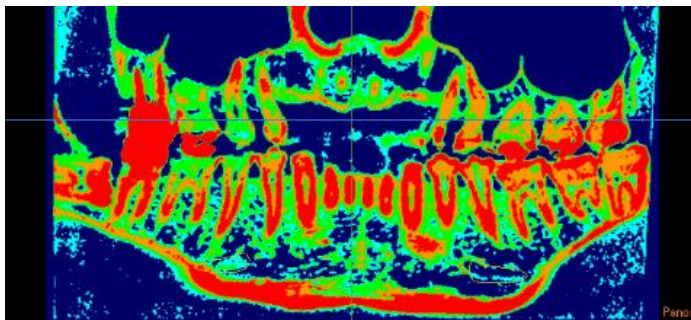


他社の歯科用 CT と RevoluX (iCAT 社) の違い

1. 正確に骨質を把握

他の歯科用 CT は歯やアゴの骨を立体的に把握することはできますが、骨質（硬さ）について正確に把握することはできません。

一方で、当院の歯科用 CT RevoluX は骨質（硬さ）を正確に計測できるため、骨質（硬さ）を事前に把握しておくことが重要であるインプラント治療に特に有効です。当院の歯科用 CT RevoluX は数ある歯科用 CT の中でも特に優れた性能を持つ装置です。



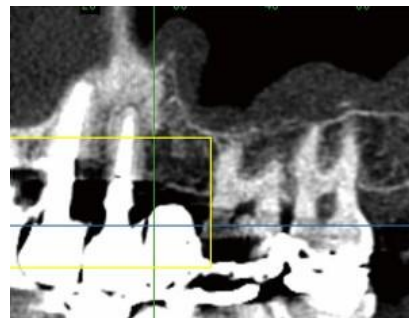
硬いアゴの骨の像

2. 金属の影響を除去

口の中は体の他の部分とは違い、歯の詰め物や被せ物として金属があります。金属は X 線を通しにくいいため、その影響でこれまでの CT では周りの骨の状態が把握できないことがありました。

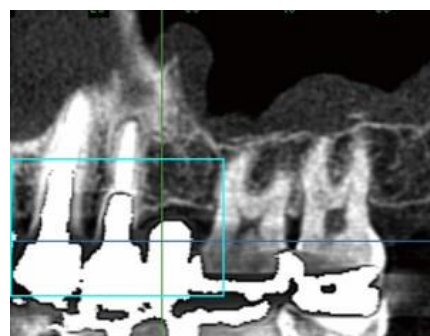
当院の歯科用 CT は金属の影響を除去するプログラムを搭載していますので、他社の CT では金属の影で映らない部分の骨でも診断することができます。

これまでの CT

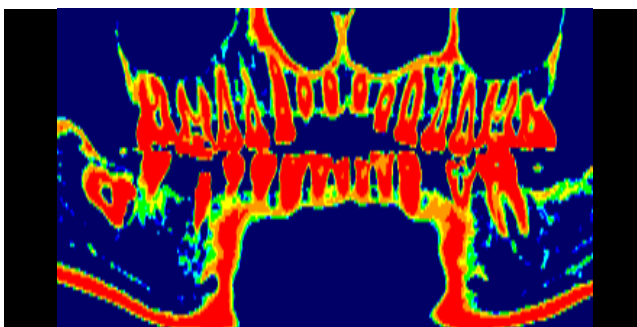


金属の周りが黒くなり映らないため診断が困難

当院の歯科用 CT



金属の周りでも骨の状態が映るため診断が可能



軟らかいアゴの骨の像